

都市再生整備計画 事後評価シート
横浜駅周辺地区

平成23年3月

神奈川県横浜市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川県		市町村名	横浜市		地区名	横浜駅周辺地区			面積	131.2ha	
交付期間	平成19年度～22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	6,380	国費率	0.4			
1)事業の実施状況	事業名											
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	(仮称)反町横浜緑道、滝の川せせらぎ緑道、南部自由通路、E通路									
		提案事業	横浜駅周辺大改造計画策定調査									
	事業名			削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし									
		提案事業	なし									
新たに追加した事業	基幹事業	なし										
	提案事業	跨線人道橋撤去、反町集会施設				跨線人道橋撤去:歩行者ネットワークの安全性向上のため追加した。 反町集会施設:地域交流を促進するため追加した。			跨線人道橋撤去:目標に影響するが、数値目標は据え置く。 反町集会施設:指標の達成に貢献した。			
交付期間の変更	当初	平成19年度～21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		関係事業者との協議に想定以上の時間を要したが、指標や数値目標の達成に必要な事業であるため、交付期間を延長して実施した。						
	変更	平成19年度～22年度										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	横浜駅構内通路の混雑の緩和	人/m・分	65	H18	30	H22	24	○	あり なし	通路幅に加え、周辺広場・連絡デッキや案内サイン整備等の総合的対策により、駅利用者の快適性向上や移動時間短縮に貢献した。	-
	指標2	ボランティア参加人数	人/年	80	H18	170	H22	180	○	あり なし	地域住民の愛護意識が共有され、ボランティア活動が活性化し、まちづくりへの住民参加が促進された。	H23年4月
指標3	イベント開催	回/年	0	H18	3	H22	4	○	あり なし	緑道がイベント空間として利用され、集会施設が住民主体の企画・運営を支えており、地域交流の活性化に繋がった。	H23年4月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	その他の数値指標1	-										
	その他の数値指標2	-										
その他の数値指標3	-											
4)定性的な効果発現状況	緑道整備により良好な住環境が創出され、沿線住民の満足度向上や、愛着心が強まった。											
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	持続的なまちづくり体制の構築	地域住民(愛護会)による緑道管理体制		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 愛護会活動の継続、発展に向けた助言を行う。				

様式2-2 地区の概要

横浜駅周辺地区(神奈川県横浜市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
<ul style="list-style-type: none"> ・便利で快適なターミナルの街、交通結節点の形成を図る。 ・歩行者の回遊性の向上と駅東西地区の一体化を進める。 ・駅周辺に展開する商業業務機能の商圈拡大を図りつつ、これまで鉄道敷地により地域分断されていた隣接開発地区や既成市街地との接続強化を図り、駅勢圏の拡大を図る。 	横浜駅構内通路の混雑の緩和	単位:人/㎡分	65 H18	30 H22	24 H22
	ボランティア参加人数	単位:人/年	80 H18	170 H22	180 H22
	イベント開催	単位:回/年	0 H18	3 H22	4 H22
		単位:	H	H	H
		単位:	H	H	H



南部自由通路の整備



横浜ポートサイド連絡デッキ



整備された緑道での愛護会活動



反町集会施設

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・駅の混雑が緩和、東西の回遊性が向上した。 ・緑道や集会施設の利用を通して地域交流が活性化した。 ・駅周辺は十分な歩行者空間や自転車等駐輪場が不足しており、駅利用者のさらなる利便性向上が求められる。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・地下中央通路と西口地下街の接続や、老朽化した跨線人道橋を撤去し、利用者の安全な通行機能を再構築することで、駅東西の通行機能を強化する。 ・きた東口歩行者広場および自転車駐輪場整備により、駅利用者の利便性を向上することで、交通結節点を強化する。 ・プロムナードを全線開通することで、歩行者ネットワークを形成し、駅勢圏を拡大する。

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
横浜駅周辺地区

平成24年3月

神奈川県横浜市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
指標1	横浜駅構内通路の混雑の緩和	人/m・分	30	24	確定 見込み	● ○	○	あり なし	-	-	-	-	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	新しい通路が全て完成し、駅全体としても利便性が向上している。
指標2	ボランティア参加人数	人/年	170	180	確定 見込み	● ○	○	あり なし	185	H23年4月	○		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	緑道の維持管理活動等、継続的に市民主体による活動が展開されている。
指標3	イベント開催	回/年	3	4	確定 見込み	● ○	○	あり なし	5	H23年4月	○		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	地域活動の場として利用されている。緑道オープニングイベントも地域主体で実施された。
指標4					確定 見込み			あり なし		H 年 月			<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
指標5					確定 見込み			あり なし		H 年 月			<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
その他の数値指標1					確定 見込み				H 年 月				<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標2					確定 見込み				H 年 月				<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標3					確定 見込み				H 年 月				<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために行う方策	新たに整備された緑道空間の有効活用	地域住民主催の緑道オープニングイベント開催支援	緑道や集会所において様々なイベントが行われ、にぎわいを創出している。	なし
	策定されたまちづくり指針の深度化	災害安全性と国際競争力の強化の観点で計画再点検	特定都市再生緊急整備地域指定(H24.1.20)、環境未来都市選定(H23.12.22)	民間開発に関連した基盤整備の調査設計等を進めるとともに、インフラ基本計画の策定やまちづくりガイドラインの更新に向けた取り組みを行っている。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	駅勢圏の拡大	高島山トンネル区間の供用開始	緑道の全線が利用可能となり、歩行者ネットワークが形成され、通勤・通学、散歩など多くの市民に利用されている。	なし

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
なし			

都市再生整備計画(清算報告)

よこはまえきしゅうへん
横浜駅周辺地区

かながわ よこはまし
神奈川県 横浜市

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	横浜駅周辺地区	面積	131.2 ha
計画期間	平成 19 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 19 年度 ~ 平成 22 年度				

目標 <ul style="list-style-type: none"> ・便利で快適なターミナルの街、交通結節点の形成を図る。 ・歩行者の回遊性の向上と駅東西地区の一体化を進める。 ・駅周辺に展開する商業業務機能の商圏拡大を図りつつ、これまで鉄道敷地により地域分断されていた隣接開発地区や既成市街地との接続強化を図り、駅勢圏の拡大を図る。

目標設定の根拠 <p>まちづくりの経緯及び現況 横浜駅は、鉄道5社7路線が乗り入れ、1日あたり約200万人の乗降客が利用している。また、駅東西の駅前広場周辺地区には、大型商業施設やホテルなどが立地し、鉄道やバス、タクシー等により多くの市民が集う市内で最大のターミナルとなっている。駅利用者は、鉄道、バスの乗り継ぎ・乗り換えや駅東西間の通行のために、現在ある横浜駅中央自由通路に集中し、朝夕の通勤、通学時間帯や休日には混雑が激しく、安全かつ快適な歩行者空間が十分確保できない状況にある。このような状況のもと、横浜駅では平成16年1月に「みなとみらい線」が乗り入れる一方で、隣接するみなとみらい21地区やヨコハマポートサイド地区では土地区画整理事業や再開発事業の大規模開発が進められており、今後ますます利用者の増加が見込まれている。このため、鉄道、バスターミナル、タクシープール間の移動の連続性を高め、駅東西地区間の連絡性・回遊性などの向上を図り、歩行者の利便性の強化など「交通網の整備改善等に伴う地域づくり」が求められている。また、横浜駅周辺地区に展開する商業業務機能の集積を活かしつつ、さらに横浜都心部全体の一体化や拡大強化により都市活動や、経済の再生を図っていくためには、横浜駅と周辺地区との連絡強化により、駅を中心とする日常商圏の拡大を図っていく必要があり、これまで鉄道高架や河川等で分断されていた地域を一体化していく必要がある。</p>
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・横浜駅周辺地区においては、鉄道敷地が地域分断や周辺土地利用の促進を妨げる要因となっており、商圏拡大の阻害要因となっている。 ・この点で、東横線の地下化に伴う跡地の活用は、都心部における土地の有効活用のみならず、これまでの地域分断要因の解消や、駅直近でありながら低密利用となっていた地区の発展を促し、駅を中心とする都心の拡大強化を図る上で有効である。 ・このため、駅東西の一体化と回遊性の向上を図るために進めている南北通路や関連事業である東西自由通路の整備と併せ、駅周辺地区を含めた駅勢圏の拡大強化に寄与するものとして、横浜駅周辺地区整備の一環として、鉄道跡地の活用を一体的に推進していくことが必要である。
将来ビジョン(中長期) 横浜都心部全体の玄関口として、首都圏でも有数の交通拠点として発達してきた横浜駅周辺地域において、その優れた立地特性を生かし、多様な機能が集積した魅力と賑わいのある広域中枢拠点を形成する。

目標を定量化する指標								
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値		
					基準年度		目標年度	
横浜駅構内通路の混雑の緩和	人/m・分	朝ラッシュ時における横浜駅構内通路のサービス水準	自由通路の整備により混雑を緩和する	65人/m・分	H18	30人/m・分	H22	
ボランティア参加人数	人/年	緑道管理等におけるボランティア参加人数	緑道を、地域住民による自主的・持続的な運営管理を行い、安心して楽しめる緑道の魅力を高めていくため、緑道の安全性や利便性の向上を図る。	80人/年	H18	170人/年	H22	
イベント開催	回/年	緑道内で行われるイベント開催の回数	地下化された鉄道敷き跡地に緑道を整備することで、明るく利用しやすい環境を造り出し、活発な市民交流を通じた地域の活性化を図る。	0回/年	H18	3回/年	H22	

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道によって分断されている横浜駅南部地区の駅東西間の連絡の確保と同時に進められている南北連絡通路および関連事業で進められている北部自由通路の整備により、横浜駅東西地区間の連絡性・回遊性・利便性などが強化する。 ・中央通路と南部自由通路を接続し、相模鉄道改札口の乗換動線の分散を促すとともに、回遊性、歩行者通路空間の快適性や利便性の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南部自由通路整備事業 ・E通路整備事業
<ul style="list-style-type: none"> ・横浜駅周辺地区において、東横線地下化区間(東白楽～横浜駅間)の跡地利用は、歩行者の回遊性・利便性の向上、横浜駅を中心とする駅勢圏の拡大強化、並びに都市環境の改善を図る上で有効であることから、周辺の歩行者系プロムナードとのネットワークの形成を図りつつ、緑道として整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反町横浜緑道
<ul style="list-style-type: none"> ・水と緑の拠点を結ぶネットワークの形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・滝の川せせらぎ緑道
<p>その他</p>	

